

# 2011年12月期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社  
代表取締役社長  
吉野 公一郎

**JASDAQ**

証券コード:4572

1. 2011年12月期 経営成績の概要 …… 3
2. 2012年～2014年12月期 中期事業計画  
(マイルストーン開示) …… 16

- ✓ 売上高は、対前期比3.6%増
- ✓ 営業損益は、売上高の増加、売上原価率の改善等により前期より改善
- ✓ 経常損益は、営業損益の改善及び補助金収入の増加等により前期より改善
- ✓ 当期純損益は、経常損益の改善及び特別損失の減少により前期より改善

(百万円)

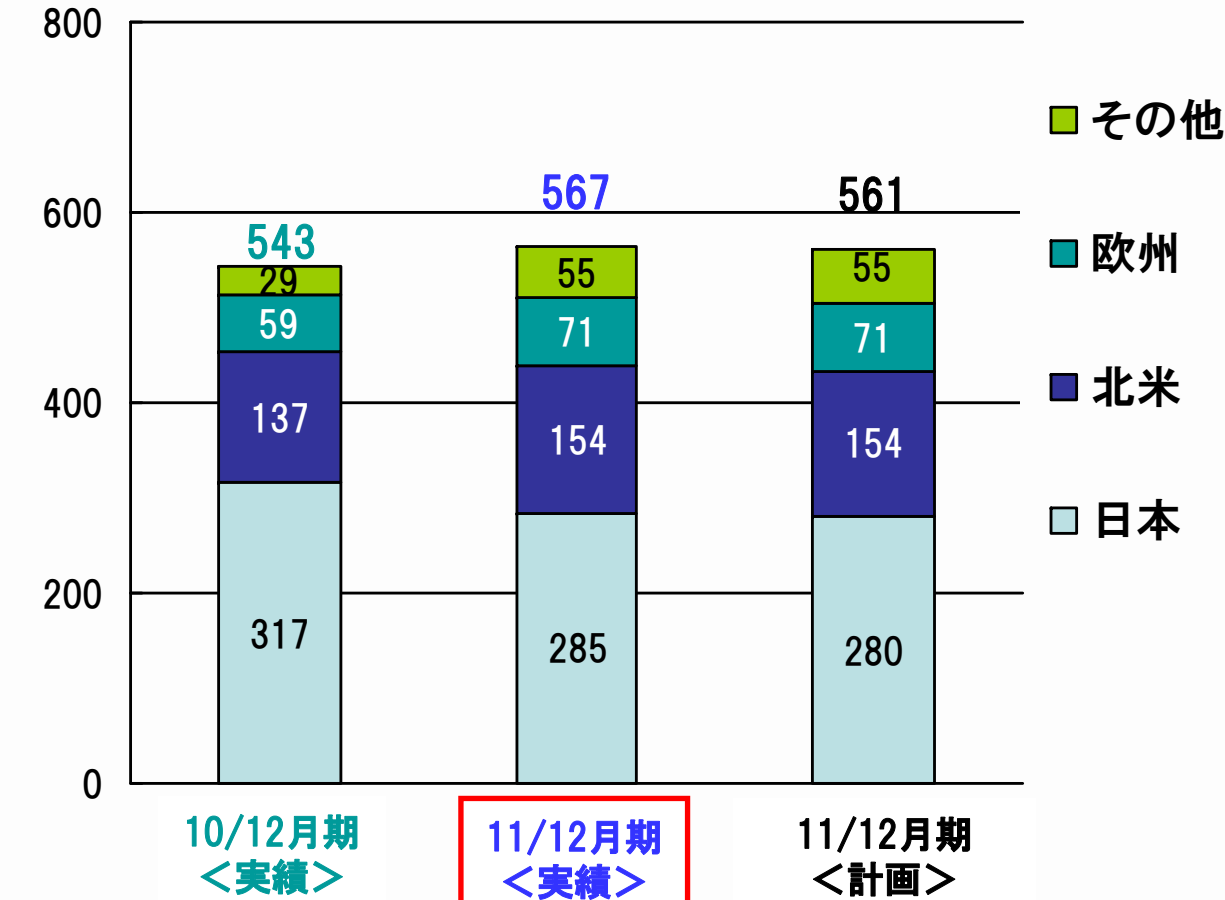
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2011年12月期実績 (a)	592	△393	△340	△361
2010年12月期実績 (b)	571	△398	△370	△397
対前期比 (c)=(a)-(b)	+20	+4	+29	+35
対前期増減率 (d)=(c)/(b)	+3.6%	—	—	—
2011年 計画値 (e)	586	△396	△342	△364
対通期計画比 (f)=(a)-(e)	+5	+2	+2	+3

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2012年1月20日発表の修正通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

## 地域別売上高(連結)

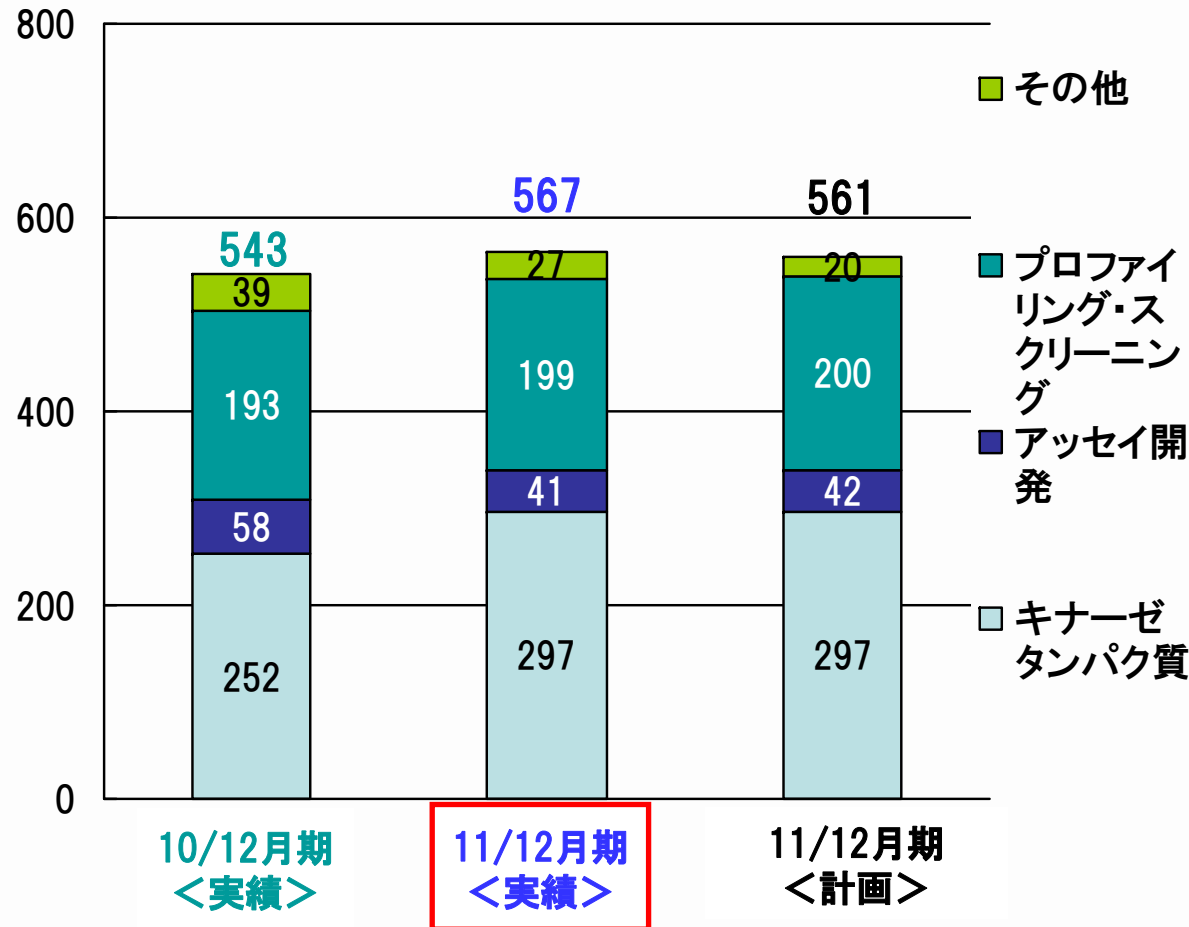


創薬支援全体の売上は  
前期比4.3%増

- ・国内は前期比10.1%減  
⇒東日本大震災の影響  
リード探索サービス減(OSI買収)
- ・北米は前期比12.4%増  
⇒学術営業による顧客増  
プロファイリング売上増
- ・欧州は前期比21.2%増  
⇒タンパク質売上増  
結晶化サービス売上増
- ・その他は前期比89.3%増  
⇒韓国でのバルクタンパク売上増  
中国の売上増(前期比66.7%増)

海外売上比率(創薬支援事業)

## (百万円) 製品別売上高(連結)



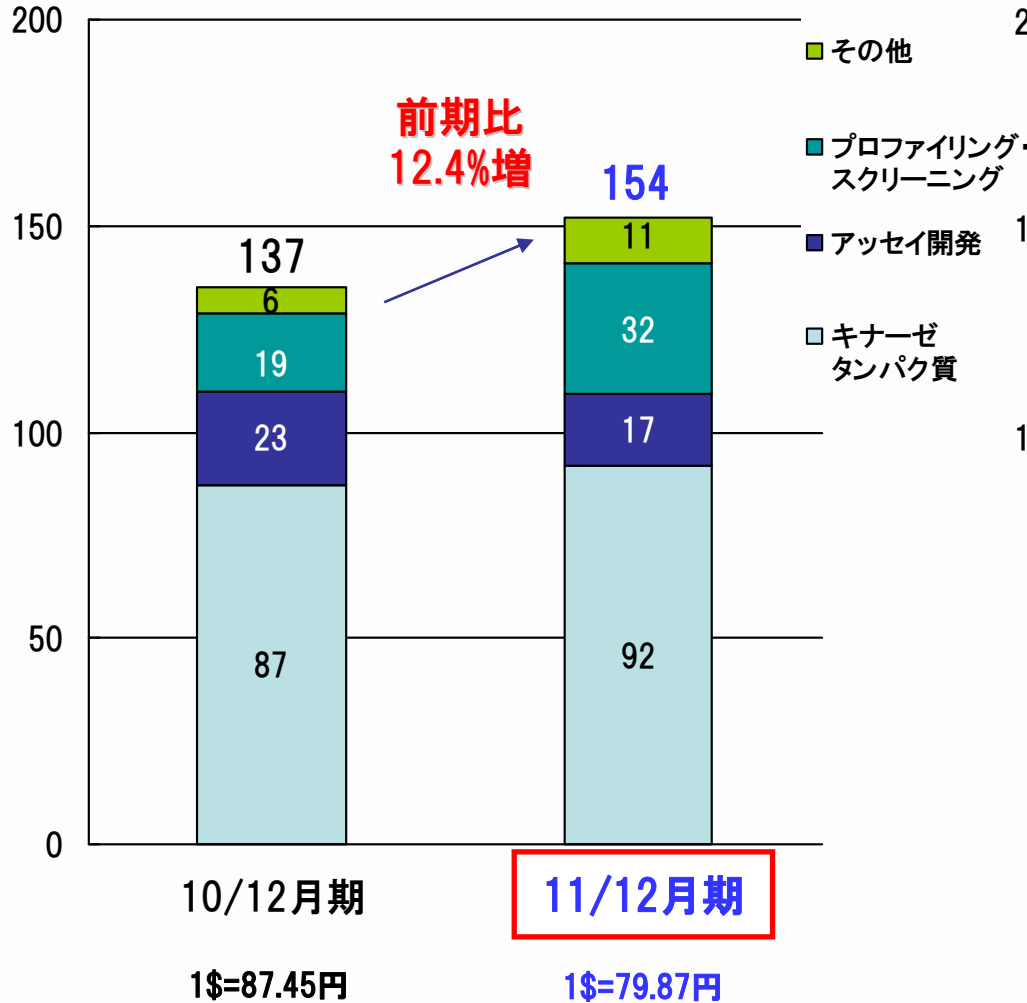
- ・タンパク質販売は前期比18.2%増  
⇒円高等の影響があったものの、全地域で前期より売上増
- ・プロファイリング・スクリーニングサービスは前期比3.3%増  
⇒米国での売上を伸ばす。国内は減少。
- ・アッセイ開発は前期比28.8%減
- ・その他は前期比29.6%減  
⇒CRELUX社のX線結晶解析サービスやACD社のセルベースアッセイサービスの売上増、しかしOSIとの協業であったリード探索サービス売上がなくなったことの影響



円高の影響大

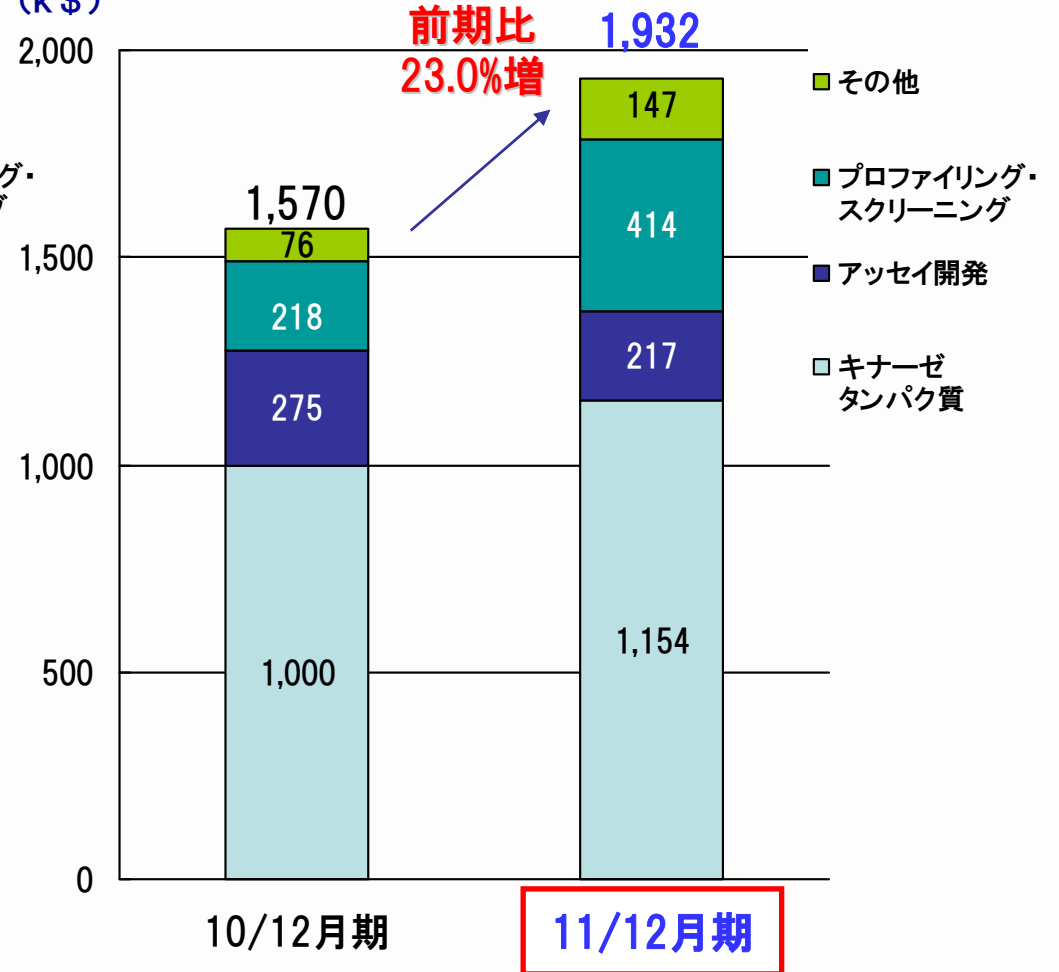
## 製品別売上高(円換算)

(百万円)



## 製品別売上高(US\$)

(k\$)



- ✓ 売上高の改善に伴い、売上総利益、営業利益が改善（海外売上高が増加、海外売上比率47.5%）
- ✓ 経常損益は、営業損益の改善及び補助金収入（営業外収益）の増加等により改善

（百万円）

		2011年12月期 実績	2010年12月期 実績	前期比 (増減)	主な増減理由
売上	創薬支援事業	567	543	23	海外売上高の増加(対前期比24.7%増)等による
	創薬事業	25	27	△2	共同研究による分担金収入等
	合計	592	571	20	
売上原価		202	201	0	
売上総利益		390	369	20	
販管費	研究開発費	358	349	8	
	販管費 (研究開発費を除く)	425	418	7	
	合計	783	768	15	
営業利益		△393	△398	4	
営業外損益		53	28	26	補助金収入の増加(がんセンターとの共同研究)
経常利益		△340	△370	29	
特別損失		14	24	△9	当期)資産除去債務基準適用影響額 前期)固定資産減損
当期純利益		△361	△397	35	経常損益の改善+特損の減少

(単位:百万円)

	2011年12月末	2010年12月末	増減額	増減理由
流動資産	1,123	1,456	△333	
現金及び預金	701	943	△241	運転資金
有価証券	200	300	△100	譲渡性預金の減少
その他	221	213	8	売掛金増等
固定資産	194	199	△5	
資産合計	1,317	1,656	△338	
負債合計	298	290	7	長期借入金の増減、預り金の減少(補助金の収益計上等)等による
純資産合計	1,019	1,365	346	
負債・純資産合計	1,317	1,656	△338	



(百万円)

	2011年12月期 実績	2010年12月期 実績	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	△350	△309	△40
投資活動による キャッシュ・フロー	△7	△45	38
財務活動による キャッシュ・フロー	16	38	△22
増減額	△341	△317	△24
現金及び 現金同等物の残高	831	1,173	△341

2009年12月売上が大きかった分の売掛金回収のため

長期借入実行ー借入金返済

設備投資の減少

## 高齢化社会で増加傾向にあるアルツハイマー予防薬等の研究開発

### キノファーマ



住所: 東京都世田谷区  
代表: 代表取締役 黒石真史

### 様々な創薬評価技術

東京医科歯科大学発ベンチャー

- ・ 優れた薬理評価モデル(マウス等)
- ・ 臨床現場に密接した研究体制
- ・ 京都大学医学部の萩原正敏教授(創業者)



### 神経変性疾患治療薬の 共同研究

### カルナバイオサイエンス



### 高い創薬基盤技術

- ・ ドラッグデザイン技術
- ・ HTS(ハイスループットスクリーニング)技術
- ・ 化合物合成などの創薬化学技術
- ・ 独自のフォーカストケミカルライブラリー



現在、当社BMAラボの4Fにてキノファーマ研究員と共同研究を実施中。

## 国立がん研究センターと包括的共同研究契約の締結

国立がん研究センター

カルナバイオサイエンス



### TNIK キナーゼ阻害剤の研究開発(大腸がん)

上席副所長治療開発グループ  
山田哲司氏

**新たながん**に関する

- ・キナーゼの調査・同定
- ・阻害化合物の評価



**新たなキナーゼ**を標的とした

- ・阻害化合物の創製
- ・リード化合物の最適化

共同研究契約は平成27年3月までの4年間にわたる。

独立行政法人医薬基盤研究所の保健医療分野における基礎研究推進事業の採択テーマでもある。

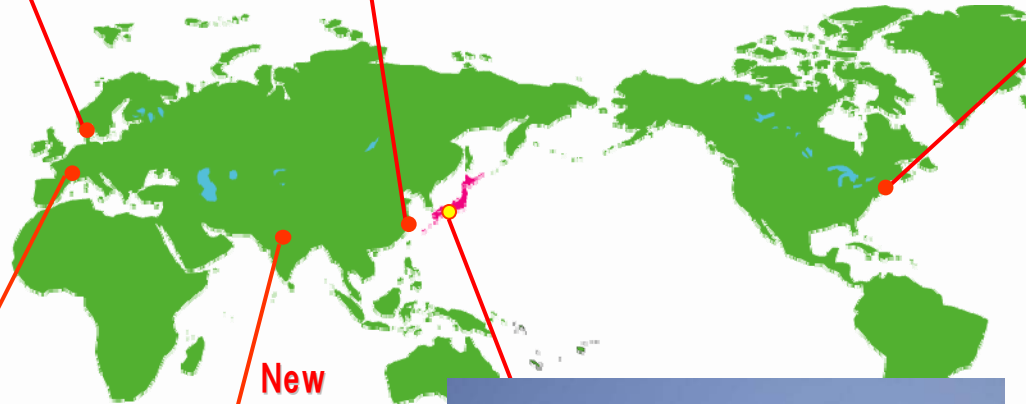
Shanghai Universal Biotech Company (上海优宁维公司)  
販売代理店(上海, 中国)



Kinase Logistics ApS  
販売代理人  
(Arslev, デンマーク)



CarnaBio USA, Inc.  
子会社(Natick, 米国)



New



EUROMEDEX  
(ゾウフェルヴァイヤース  
ハイム, フランス)

New



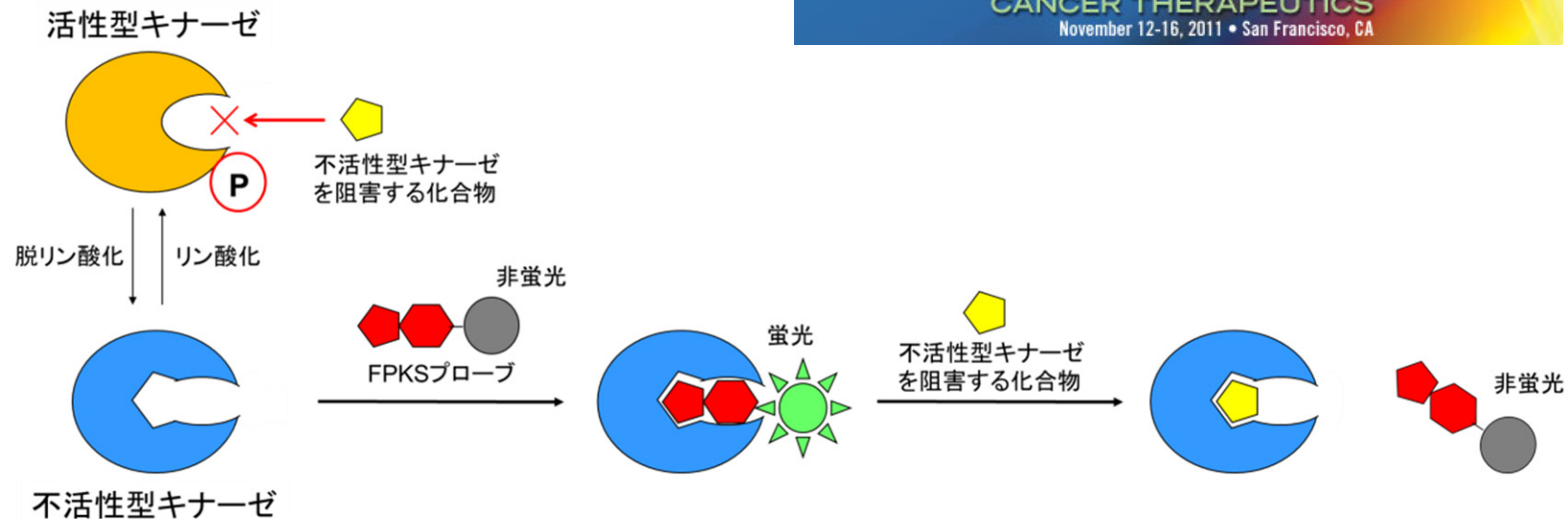
Biogeniux Medsystems  
Pvt. Ltd.  
(ニューデリー, インド)



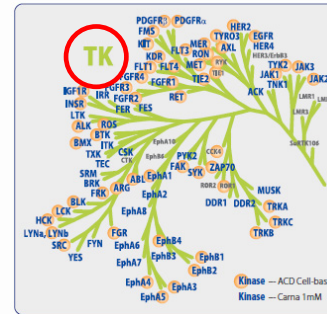
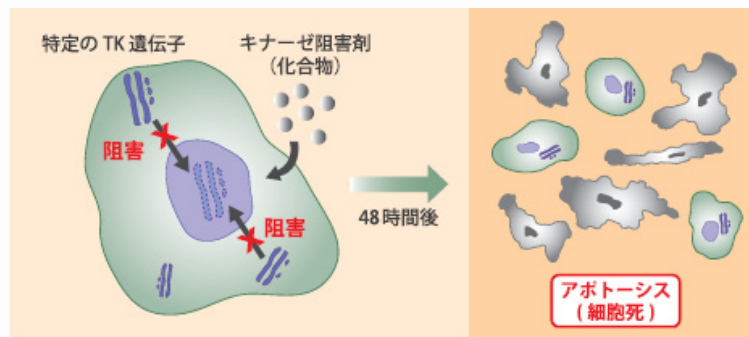
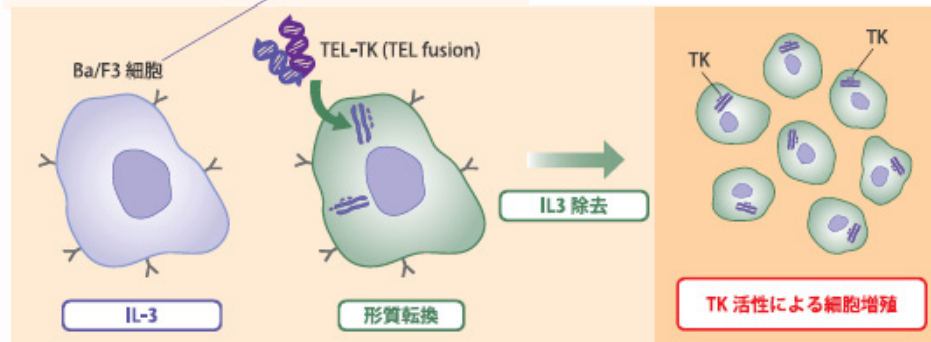
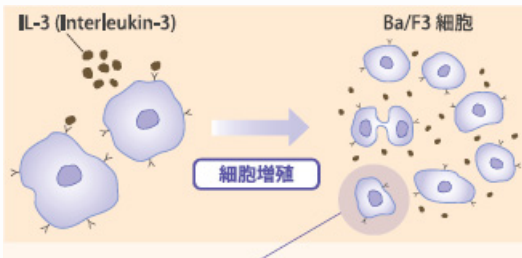
カルナバイオサイエンス株式会社(神戸, 日本)

## 不活性型キナーゼを標的とした新しいスクリーニング手法 「FPKS法」の特許出願のお知らせ

The 2011 AACR-NCI-EORTC International Conference on Molecular Targets and Cancer Therapeutics  
にて、2011年11月12日～16日に発表。



## セルベースアッセイの受託サービス + セルラインの提供開始



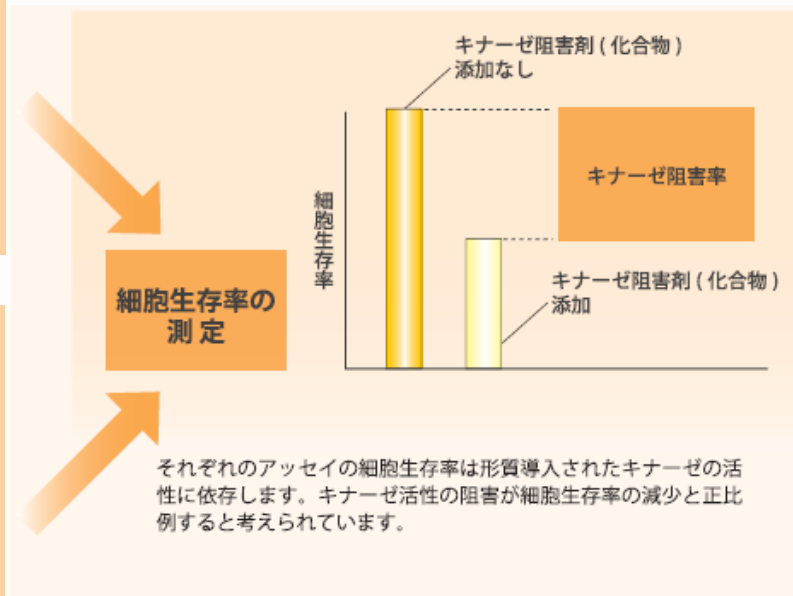
ACD Cell-Based TK Assays Available for Screening Services

**Total 57 Kinases - Broad Coverage of the Tyrosine Kinome!**

ABL (BCR-ABL)	EphA5	FLT4	LCK	SYK
ALK	EphB1	FMS (CSF1R)	LYN	TIE1
ARG (ABL2)	EphB2	FRK	MER (MERTK)	TIE2
AXL <small>new</small>	EphB4	HCK	MET	TRKA (NTRK1)
BLK	FAK	HER2(ERBB2) <small>new</small>	PDGFRα	TRKB (NTRK2)
BMX	FGFR1	IGF1R	PDGFRβ	TRKC (NTRK3)
BTK <small>new</small>	FGFR2	INSR	RET	TYK2
CCK4 (PTK7)	FGFR3	JAK1	RON (MST1R)	TYRO3
EGFR <small>new</small>	FGFR4	JAK2	ROR1 <small>new</small>	ZAP70
EphA1	FGFR	JAK3	ROS (ROS1)	
EphA3	FLT1	KDR	RYK	
EphA4	FLT3	KIT	SRC	

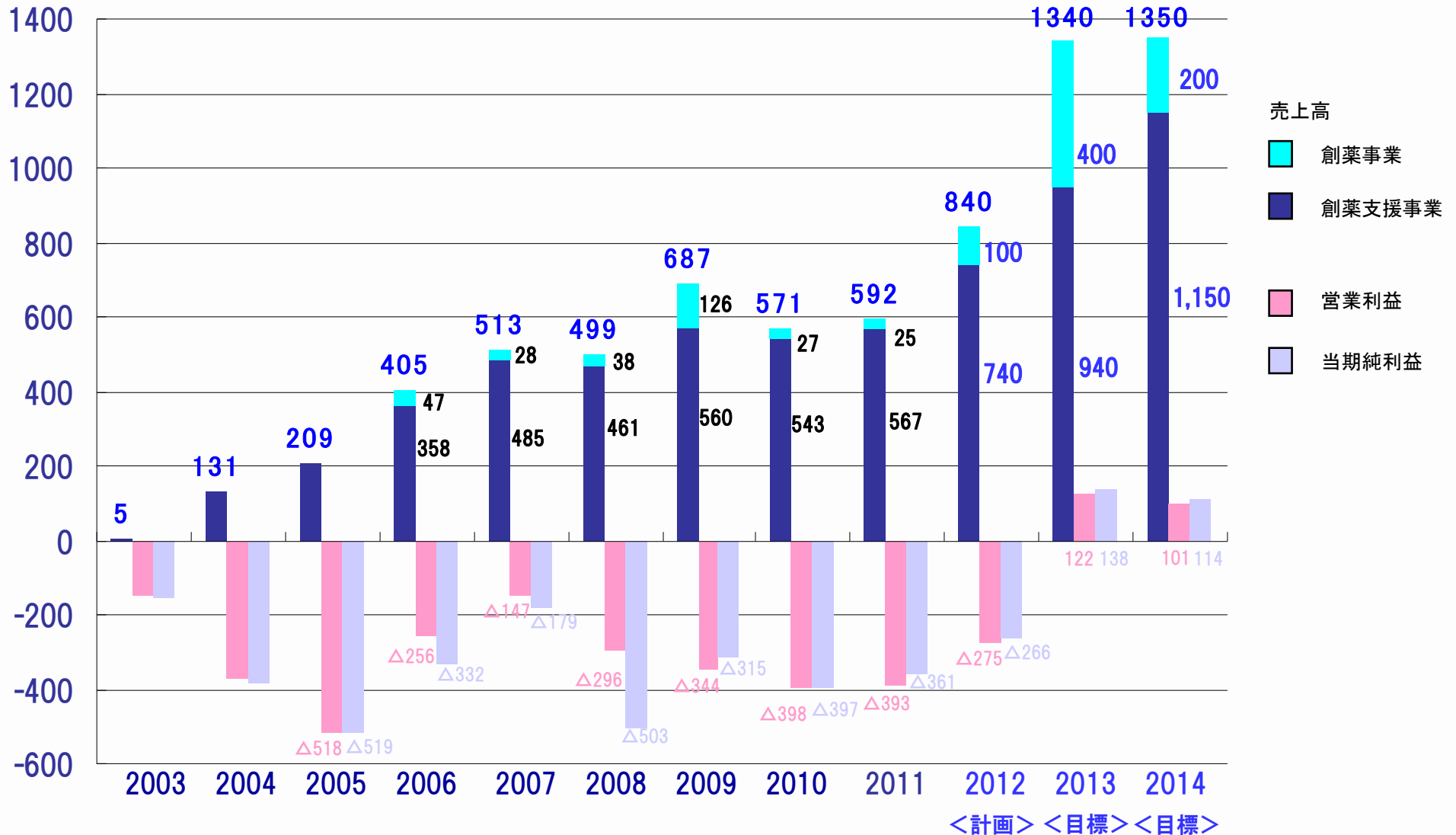
Kinase - ACD Cell-based  
Kinase - Carma 1mM  
Updated: 2011/6/15

### 57種類のチロシンキナーゼ(TK)



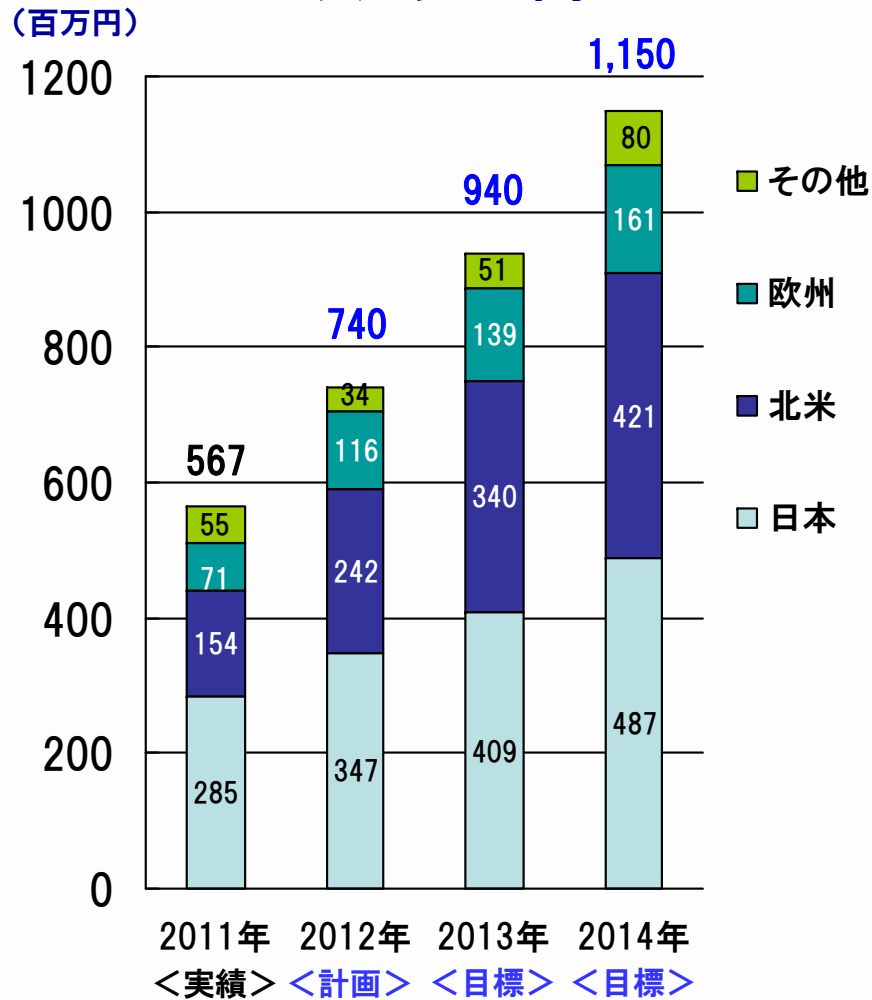
1. 2011年12月期 経営成績の概要 …… 3
2. 2012年～2014年12月期 中期事業計画 …… 16  
(マイルストーン開示)

(百万円)

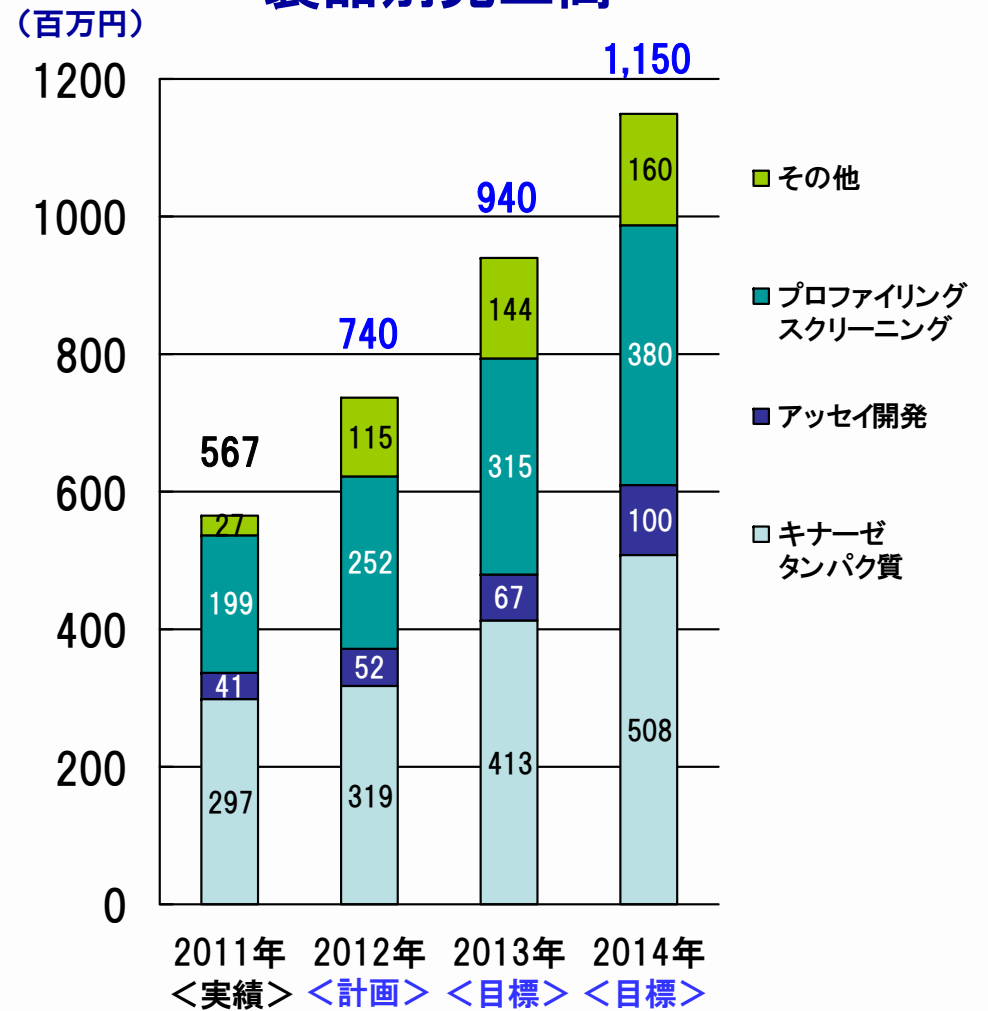




## 地域別売上高



## 製品別売上高



## ➤欧米での売上拡大

代理店との関係強化

顧客との関係強化(トップセールス)

コンタクト先の拡大(ガン領域からその他領域へ)



EUROMEDEX

## ➤アジア市場拡大への取り組み

中国での学術営業、セミナー開催



## ➤顧客ニーズに応じた製品・サービスの提供

ビオチン化タンパク質

セルベースアッセイ など



## ➤生産性の向上

キナーゼタンパク質製造

プロファイリングサービス



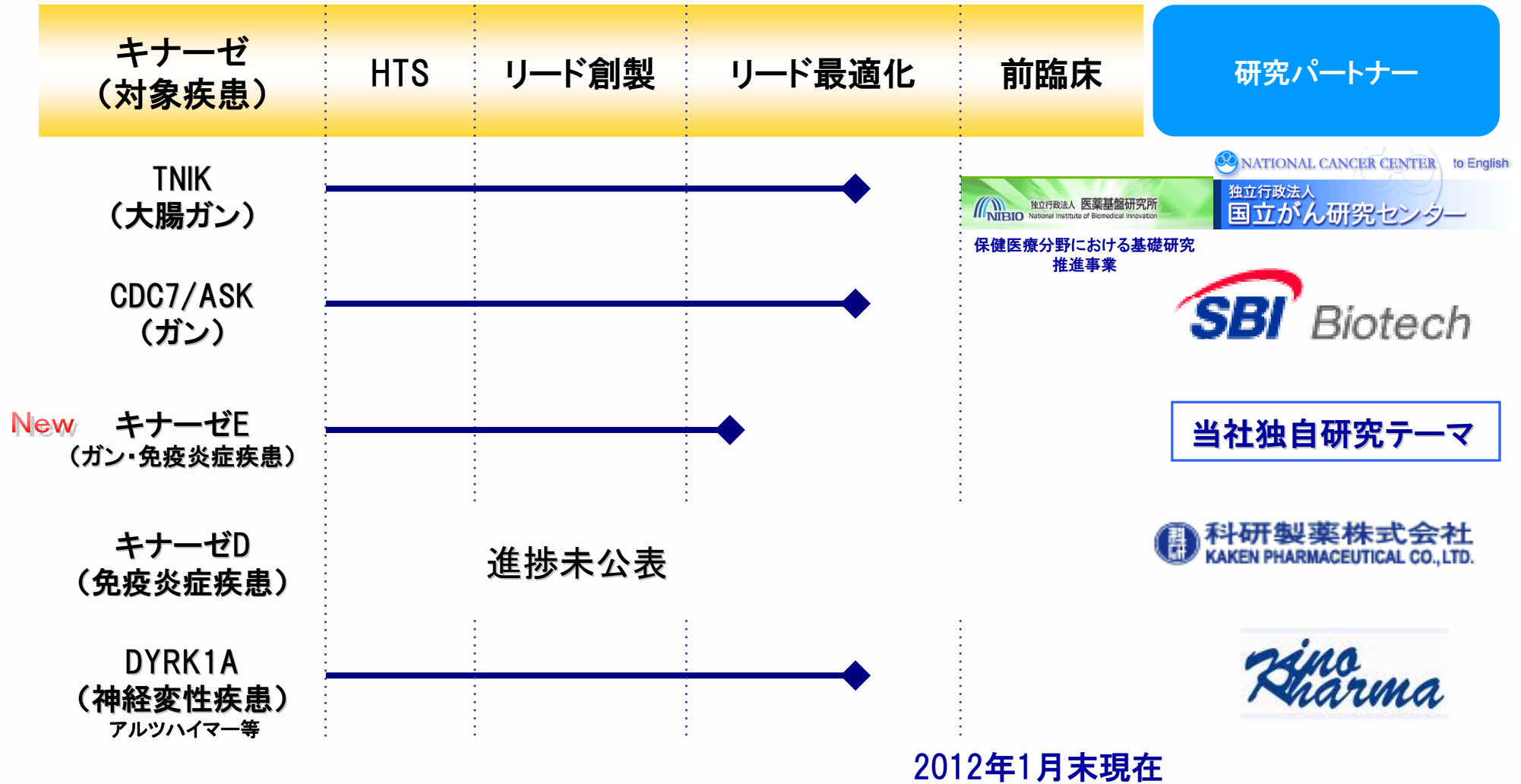
- ガンを継続的に重点領域とする
- 研究パートナーとのアライアンスの活用(国立がん研究センター等)
- 2012年12月期に2テーマの導出又は探索から前臨床へのステージアップを達成する
- 導出活動を継続的に実施
- 薬理機能の強化

ステージアップ数	前臨床⇒臨床 (又は導出)		1	1
	探索⇒前臨床 (又は導出)	2	1	1
研究テーマ数		5	5	5

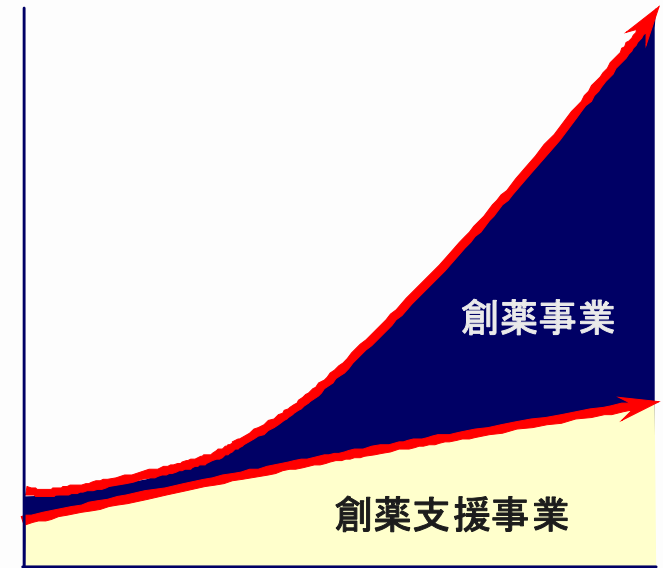
2012年 2013年 2014年  
12月期 12月期 12月期



## 当社が公表している研究パイプラインの進捗状況



1. 当社の創薬事業は、従来の創薬ベンチャーとは異なり、膨大なコストと開発中止のリスクが高い第3相臨床試験(PIII)以降の段階は手掛けず、それ以前のいずれかの段階で大手製薬企業に化合物を導出するビジネスモデルを想定しております。
2. 当社は創薬支援事業においては2006年12月期以降黒字化しております。  
今後も創薬支援事業での売上を伸ばすことで、2013年12月期には、会社全体として黒字化を目指します。
3. 当社は、ガンなどを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の創薬研究をスピーディーに進めてまいりますが、一般的には、創薬の成果が実るには長い年月がかかることをご理解下さい。
4. 中長期的には成長トレンドにあるため、カルナバイオサイエンスの株式は、中長期的視野で保有していただきたいと存じます。



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社  
経営管理本部 経営企画部  
〒650-0047  
兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F  
Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665  
<http://www.carnabio.com/>  
ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。